

科目責任者 小松 楠緒子 (社会学研究室)

■ 教育目的

本講義においては、社会学の中でも特に医療社会学を中心に授業を行う。授業の目的は、「医療に関する諸問題を社会的視点からとらえる力の育成」である。受講者が、「医療社会的視点」という新たな目を持ち、複眼的思考を身に付けることを目指す。なお、社会化、逸脱等の社会学の基礎概念にも適宜触れる。

この講義では、がん告知、インフォームド・コンセント等の基礎事項から臓器移植、出生前診断、先端医療等の各論まで幅広いトピックスを扱う。そしてできるだけ、薬学に関する最新のトピックスに触れる。必要に応じてビデオ・DVD教材を視聴、授業の最後に小レポートを書く時間をとる。結果はプリントにまとめ、必要に応じてフィードバックする。授業テーマのリクエスト可。質問も歓迎。講義への「積極的参加」を希望する。

■ 学習到達目標

1. 社会的な思考法に慣れること。
2. 医療に関する諸問題を社会的視点からとらえる力の育成。
3. 医療社会学の基礎知識を身に付けること。
4. 医療社会学の主要なトピックスを理解すること。

■ 準備学習（予習・復習）

予習：日ごろから現代日本の医療に関するニュースに関心を持ち、問題点を把握する。

復習：講義中の指示による（指定 HP、論文の参照など）。

■ 授業内容

No.	項目	授業内容	SBOコード
1	医療社会学の基礎	イントロダクション・患者の権利運動	A (2) -2-4
2	//	告知 — 言うメリット、言わないメリット	A (3) -3-4 A (3) -4-3
3	//	インフォームド・コンセント — 避けられない関門	A (2) -2-3
4	//	自己決定権 — 運命の演出	A (2) -2-4
5	//	医療者 — 患者関係 — お任せ？ それとも対等に？	A (3) -3-4
6	//	専門家支配 — みえない壁	A (3) -3-2 A (3) -3-3
7	//	チーム医療 — 医療者の環	A (3) -4-1
8	医療社会学の諸相	出生前診断 — 命の選別	A (1) -1-2
9	//	臓器移植 — 究極の選択	A (1) -1-4 A (1) -2-1 A (1) -3-1
10	//	先端医療 — どこまでが医療？	A (1) -1-2 A (1) -3-1
11	//	トータル・ケア — ところどころ大事	A (3) -2-1 A (3) -2-2
12	//	終末期医療 — 希望の探求	A (3) -3-1 A (3) -3-2 A (3) -3-3 A (3) -3-4
13	//	薬害を生む社会 — 繰り返される悲劇	C17 (1) -8-1 C18 (1) -1-1
14	総括	講義のまとめ	A (1) -1-1 A (1) -1-3 A (1) -2-1 A (1) -3-1
15	//	テスト対策	A (2) -1-1 A (2) -1-2 A (2) -1-3 A (2) -5-1

■ 授業分担者

No. 1 ～ 15 小松 楠緒子

■ 成績評価方法

期末試験の成績（60 %）と授業への参加態度・課題レポートなど（40 %）により総合評価する。

■ 教科書

『薬学生のための医療社会学』（北樹出版、2012）

『伝達の鍵』（学文社、2013）

■ 参考書

授業中に指示